

■ 日程表

開催日	時間帯	講師名	役職等	テーマ
5/14(木)	18:00～19:30	近藤 浩二	一般社団法人希少糖普及協会 代表理事会長	香川発夢の糖「希少糖」の事業化
5/20(水)	18:00～19:30	佐藤 実	東海大学理学部講師	宇宙エレベーターが開く未来
6/ 2(火)	18:00～19:30	品川 大輔	香川大学経済学部准教授	アフリカはどのように伝えられてきたか ー「グローバル化」社会を生きるための 視野を求めてー
6/19(金)	18:00～19:30	藪添 隆一	京都光華女子大学教授	エンカウンター(出会い)経験を 想い出す
7/ 3(金)	18:00～19:30	平 篤志	香川大学教育学部教授	経済活動の国際化と地場産業 ー四国の企業を事例としてー
7/14(火)	18:00～19:30	高水 徹	香川大学 インターナショナルオフィス 講師	国際化する日本における 言語コミュニケーションと日本語



お問合せ先・担当窓口

国立大学法人香川大学 修学支援グループ(研究交流棟1F) 担当:庵原

〒760-8521 香川県高松市幸町1-1 TEL: (087) 832-1151 FAX: (087) 832-1155

E-mail: sogaksen@jim.ao.kagawa-u.ac.jp URL: <http://www.kagawa-u.ac.jp>

■ 申込方法

必要事項①～④を上記のE-mailへ送信するか、直接担当窓口で申し込んで下さい。

当日参加も可能です。

[必要事項]

①参加希望日 ②学部・学科 ③学籍番号 ④氏 名

※当日参加可能ですが、配付資料準備のため、できるだけ事前に申し込みをお願いします。

※申し込みいただいた個人情報は、本セミナーでのみ使用し、これ以外の目的で使用することはありません。

※本セミナーは香川大学学生を主対象としていますが、教職員・学外の希望者も参加できます。

もう一歩先の学びへ

香川大学 アドバンスト・ セミナー

■ 開催日時

5月14日～

火～金 18:00～19:30

※詳細は裏面参照のこと。

■ 場所

OLIVE SQUARE 2F
多目的ホール

～ アドバンスト・セミナーってなに? ～

大学の学びは、最先端の研究の現場、リアルタイムな社会問題の現場を舞台として、学生のみなさんが教員とともに考えることによって成立します。みなさんに、こういった舞台で活躍する方々の取り組みにもっと間近で触れてほしい、その原動力となる熱意を感じ取ってほしい、そして「大学で学んでこんなに面白いんだ!」と実感してほしい—— アドバンスト・セミナーは、長尾学長のそんな思いから開講されることになった正課外の講座です。講座では、様々な分野で活躍される学内・学外のトップクラスの方々と講師を迎え、講師と参加者との双方向のやり取りが行われます。アドバンスト・セミナーは、みなさんがこれまでの学びを越えて「もう一歩先へ」と歩んでいくための道しるべです。



長尾 省吾 学長



■ 講演日程・テーマ・講師プロフィール

5月14日🌞 18:00～19:30

『香川発夢の糖「希少糖」の事業化』

近藤 浩二氏 【一般社団法人希少糖普及協会代表理事会長】

香川大学が開発した「希少糖」とは、自然界に僅かしかない単糖及びその誘導体と定義されている。これらの糖がなぜ夢の糖なのか、その事業化を目指した研究開発が香川大学や香川県をはじめとした産学官連携事業として発展してきた経緯や今後の発展の方向について述べる。

5月20日🌞 18:00～19:30

『宇宙エレベーターが開く未来』

佐藤 実氏 【東海大学理学部講師】

宇宙エレベーターの原理を紹介し、宇宙エレベーターが社会に与えるインパクトや人類の未来にとっての意義を解きほぐしていきます。

宇宙エレベーターが実現すると宇宙空間での人類の活動が本格化します。ロケットに比べ安全で安価に宇宙空間に行けるので宇宙旅行が大衆化し、宇宙太陽光発電衛星からの送電によってエネルギー問題や地球温暖化が解消します。

さらに、月や小惑星をはじめとした太陽系の開発が進み、恒星間宇宙の探査も始まります。宇宙エレベーターを通して人類の未来について考えてみます。

6月 2日🌞 18:00～19:30

『アフリカはどのように伝えられてきたかー「グローバル化」社会を生きるための視野を求めてー』

品川 大輔 准教授 【香川大学経済学部准教授】

「グローバル化」という現象が喧伝されて久しいなか、私たちの身の周りの情報は本当に「グローバル」なものだろうか？

日常的に接する海外のニュースは、アジアの近隣諸国や欧米の先進諸国に関するものばかりで、その他の地域の情報は限定的にしか届けられない。しかも、その限定的な情報すら、前提に誤解や無知があれば、たちまち歪んだものになってしまう。

本講座では、アフリカを対象とした最近の事例を用いて、そのような「歪んだアフリカ像」創出のプロセスを読み解く。その作業はそのまま、「グローバル」な世界を生きるうえで必要とされる視野を探究することにもつながろう。

6月19日🌞 18:00～19:30

『エンカウンター（出会い）経験を思い出す』

藪添 隆一 教授 【京都光華女子大学教授】

カウンセリングは心と心の出会いを目指し、出会いの瞬間に起きる人格変容を期待するコミュニケーションです。他者と出会う瞬間に、人は自己と出会います。本当の自分と出会ったときから、私たちは本当の人生を歩き始めるのです。

事例をもとにして、このことを物語りたいと思います。

7月 3日🌞 18:00～19:30

『経済活動の国際化と地場産業ー四国の企業を事例としてー』

平 篤志 教授 【香川大学教育学部教授】

1980年代以降、日本経済の国際化が急速に進展した。一方、四国を含み、地方の地場産業は、高度経済成長の頃より、東京に代表される大都市への若年層を中心とした人口移動により労働者の確保が難しくなり、東かがわ地域の手袋産業のように、いち早く韓国や台湾といった近隣諸国を中心に海外展開を始めるところもあらわれた。1990年代になると、中国やインドが急速に経済成長を遂げ、特に中国は「世界の工場」と呼ばれるようになった。日本の中小企業も、大企業を追うように、コスト削減を目指して、中国を中心とした新興国への展開を活性化させた。その後は、中国経済の成長に伴う人件費の高騰や日中間の緊張の高まりなどにより、中国以外の国に展開する「チャイナプラスワン」戦略が求められるようになった。さらに、進出企業にとって、これら新興国は、従来の生産現場としてだけでなく、製品を販売する市場としても重要になりつつある。一方、地方中小企業の本社の立地する国内の地場では、国内生産の縮小により新たな生存戦略の立案と実行が喫緊の課題となっている。本講座では、地理学的な視点に立脚して、四国の企業を事例に、経済活動の国際化と地場産業の関係を考察したいと思う。

7月14日🌞 18:00～19:30

『国際化する日本における言語コミュニケーションと日本語』

高水 徹氏 【香川大学インターナショナルオフィス講師】

日本の国際化ということが盛んに口にされています。それに伴い、英語の重要性が繰り返し指摘され、社会にもその影響が出てきています。そして、英語が実際に重要であることも疑いの余地はありません。

一方で、外国人が日本で生活する、ということを想像してみてください。コミュニケーションの道具として最適な言語は、ほとんどの場合において日本語であるはずですが。

本講座では、日本で暮らす外国人の視点も踏まえて日本語を見つめ直し、見過ごされがちな側面に光を当てます。

